

ス
ラ
イ
ド
1

第4回福岡県地域おこし研修・交流会
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」による地域おこし

出会いと交流のプラットフォーム
と
持ちつ持たれつ
(Give and Take)

2006年2月25日
近畿大学 産業理工学部
菊川 清

ス
ラ
イ
ド
2

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」と「産学協同」

「住学協同」は認知されているか? (06/02/13)
検索エンジン Google で認知度を見る

| | |
|--------------|--------------------|
| 「住学協同」: 115件 | 「産学協同」: 604,000件 |
| 「住学協働」: 4件 | 「産学協働」: 130,000件 |
| 「住学共同」: 13件 | 「産学共同」: 1,640,000件 |
| 「住学連携」: 0件 | 「産学連携」: 2,380,000件 |

住学:計 132件 産学:計 4,754,000件

「産学協同(共同、連携)」は広く認知されている。
「住学協同」は認知されていない。なぜか?

ス
ラ
イ
ド
3

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

筑豊以外の「住学協同」

カリフォルニア大学デービス校(UCDavis)
学生主体の「住学協同」(学生自治組織ASUCDによる)
・学内の物品販売、食堂経営はもとより、デービス市と協力して、市の社会基盤整備事業に積極的に参加(年間予算~12億円)
・Unitrans/バスの運行をASUCDが全面的に受託(運転手も学生)
・Junior Campus Tour(小・中学生対象の学内開放) 学生主体で運営 (東工大クロニクルNo.388 参照)

東京都国立市
国立市に在住する「学生」と「住民」の「住学協働」
・市議から市長への質問に見えるだけで、具体的な事例は不明

ス
ラ
イ
ド
4

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

大学を核とした地域おこし:シリコンバレー
枝川公一「シリコンヴァレー物語」(中公新書)

1891年:スタンフォード大学開校 1925年:F.ターマン教授就任
・東部と西部に大きな格差(有力企業・政府資金など)
・優秀な学生を地元に残すため起業を奨める

1939年:ヒューレット・パッカード社 設立
(1940-1945: F.ターマン教授 ハーバード大無線研究所 所長)

1950年代:「産学協同」のシステム化(F.ターマン工学部長就任)
・スタンフォードリサーチパーク(1953):大学の知的資源の活用

1955年:ショックレー研究所 → 1957年フェアチャイルドセミコンダクタ →
1968年:インテル社 1971年:シリコンバレー命名

大学がシリコンバレー形成に決定的な役割
「産」と「学」 Give and Take の関係を見る

皆さま、こんにちは！近畿大学の菊川でございます。

第4回 福岡県地域おこし研修・交流会にご参加頂きまして、有難うございます。

本日は、研修・交流会のテーマでございます「住学協同による地域おこし」について、筑豊での経験を踏まえ、「出会いと交流のプラットフォーム」と「持ちつ持たれつ」をキーワードとして、ご紹介させていただきます。

さて、「住学協同」という言葉、ごぞんじですか？私にとって馴染み深いこの言葉も、皆様には、意外となじみが薄いのではないか、と思いました。

そこで、住学協同に関連の深い産学協同と併せて、インターネットの検索エンジン、グーグルで、その認知度を調べてみました。ここに示しました住学協同という言葉で3つ、それに住学連携を加えた4つの言葉で検索してみますと、合計120件ヒットいたしました。

一方、産学協同について、対応した4つの言葉で検索いたしますと、なんと！475万4千件もヒットいたしました。

明らかに「産学協同」は広く認知されていますが、「住学協同」は、認知されていません。

なぜか？これに答えるのも本日のテーマの一つと思います。なお、住学協同に関する132件のうち筑豊関係が128件、筑豊以外はたった4件、カリフォルニア大学デービス校に関するものが2件と、東京都国立市におけるものが2件でした。

カリフォルニア大学デービス校に関するものは、東工大の先生が「住学協同の先進地」として紹介されているだけあって、大変興味深いものがありましたので、資料2として配布させていただきました。

さて、大学を核とした地域おこしといえば、なんと言ってもシリコンバレーです。そこで、枝川公一さんの「シリコンヴァレー物語」から少し紹介させていただきます。

シリコンバレー形の原点は1925年、フレデリック・ターマン教授のスタンフォード大学への着任にあります。

当時、アメリカでは東部と西部の間に大きな格差がありました。このため、一生懸命育てた優秀な学生も、東部の有力企業に就職して、地元に残らないという嘆きがありました。まるで、この筑豊地区を見るようです。

ターマン教授は、優秀な学生を地元に残すために、彼らにベンチャー企業を起こすよう強く奨めました。

こうして、ターマン教授が目をつけた、ヒューレットとパッカードという二人の優秀な学生が、1939年に設立したのが、ヒューレット・パッカード社という、シリコンバレーの出発点となった世界的な企業です。

戦後、ターマン教授は工学部長として、大学敷地内に工業団地、スタンフォードリサーチパークを作り、大学の知的資源を活用する、産学協同のシステム化を強力に推し進めます。

1950年代、ノーベル賞受賞者ショックレーを招聘した研究所の設立に伴って、優秀な半導体研究者が集まりました。

そのショックレー研究所をスピンアウトしたグループが作ったフェアチャイルドセミコンダクタ社を経て、1968年、現在世界のパソコンの頭脳、マイクロプロセッサのほとんどを生産しているインテル社が誕生しました。

シリコンバレーは、こうして 1960 年代末には形成され、1971 年に命名されて誕生しました。

スタンフォード大学がシリコンバレーの形成に決定的な役割を果たしましたが、ターマン教授が特に意を注いだのが、「産」と「学」の間の持ちつ持たれつ関係であったと言われています。

シリコンバレーの出現は、世界に大きなインパクトを与え、世界中に、シリコン何とかとか、何とかバレーが生まれ、飯塚でも、e-ZUKA トライバレーが生まれたというわけです。

なぜ世界にインパクトを与えたのか？と申しますと、それは、シリコンバレーの形成が「ハイテク産業の立地条件はヒト」であることを示したからであります。20世紀前半までの産業が、石炭や鉄鉱石、あるいは港湾といったモノを立地条件としたのに対する、革命的ともいえる変化です。

枝川さんは「シリコンバレーでは、人のつながりでほとんどのことが決まる」といい、東工大監事の西村さんは、20世紀後半の先端科学では、「様々な人の交流だけが新たな知を創造し、価値を生む」と述べておられます。

立地条件がヒトとなると、これはもう、大学の出番です。シリコンバレーの形成を受けて、1980年前後、欧米では大学革命と呼ばれるほどの、大学の役割の歴史的転換が行われます。すなわち、大学に、教育と研究に加え、「新産業」や「雇用の創出」を期待するようになります。

日本でも、地方の時代の核としての大学への期待が高まります。1983年、当時の細川熊本県知事は、「その土地に知的興奮が無ければ、人材は集まらないし残らない」といい、山本静岡県知事は「本当の意味で地域格差をつくっていくのは、これからは大学」といっています。

ス
ラ
イ
ド

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

シリコンバレーが示したもの
ハイテク産業の立地条件は「ヒト」

「シリコンバレーでは **人のつながりでほとんどのことが決まる**」(枝川公一)
「**様々な人の交流だけが新たな知を創造し、価値を生む**」(東工大監事 西村吉雄)

インテル社の誕生:新しいことへ挑戦するために!
「**みんなのための自分、自分のためのみんなという、個と全体の絶妙のバランスの上に、インテル社は構築された**」(枝川公一)

シリコンバレーを象徴する三つの言葉
“Give and Take”(持ちつ持たれつ)
“One for All, All for One”(みんなのための自分、自分のためのみんな)
“Only The Paranoid Survive”(シリコンバレーでは偏執狂だけが生き残れる)

ス
ラ
イ
ド

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

立地条件は「ヒト」:「大学の出番」

～1980年

欧米:「大学革命」大学の役割の歴史的転換
・大学に、教育と研究に加え、
「**新産業**」や「**雇用の創出**」を期待

日本:地方の時代の「核」としての大学への期待
・その土地に知的興奮がなければ
人材は集まらないし残らない
細川隆照(熊本県知事, 当時)『日経産業新聞』1983年11月4日

・本当の意味での地域格差をつくっていくのは、
これからは**大学**
山本敬三郎(静岡県知事, 当時)『日本経済新聞』1983年10月31日

ス
ラ
イ
ド

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

大学のもう一つの顔: 非営利活動
西村吉雄 東工大監事

市場経済: 勝ち組がますます勝つ → 独占の形成
→ 開発投資や新規参入意欲が衰退 = 独占の弊害
→ 非営利組織としての 大学への期待

- 非営利活動は、利潤や投資回収とは違う価値によって動き得る仲間からの尊敬が報酬
- しかし非営利活動も金銭的サポートを必要とする 営利と非営利の連携が問題解決に有効
- リナックス: 非営利活動が、市場経済側の起業家精神を刺激し、新産業を開きつつある

産学連携とは市場経済と非営利活動の連携

7

大学にはもう一つ「非営利活動」という顔がございます。

市場経済、資本主義体制では本質的に「勝ち組がますます勝つ」、すなわち “Winner takes all”なわけです。これは必然的に独占を生みます。独占状態では「開発投資や新規参入意欲」が衰退します。いわゆる独占の弊害です。

これを解決するために、非営利組織としての大学への期待が高まるわけです。非営利活動は、利潤や投資回収とは違う価値によって動きえます。しかし、非営利活動も金銭的サポートを必要とします。そこで、営利と非営利の連携が問題解決に有効となります。すなわち、産学連携とは、言い換えますと、市場経済と非営利活動の連携といえるわけです。

ス
ラ
イ
ド

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「産学連携」を推進する大学の2つの機能
西村吉雄 東工大監事

1) 出会いと交流のプラットフォームとしての大学

- 様々な人の交流だけが新たな知を創造し、価値を生む
- 人が入ってきて、出会い、交流し、出て行く
これを本来の機能としている組織は大学だけ
- 研究とは、交流から知を創造すること
- 教育とは、知を付加価値として身につけて出て行くこと

2) 非営利組織としての大学

- 市場経済と非営利活動の連携として、「産学連携」が理想的な Give and Take の関係となり得る。

8

すなわち、大学の持つ2つの顔(機能)が、産学連携を推進しているといえます。

第一に、出会いと交流のプラットフォームとしての大学です。

人が入ってきて、出会い、交流し、出て行く、これを本来の機能としてもつ組織は大学だけであり、この機能が、様々な人の交流だけが新たな知を創造し、価値を生むという先端科学の時代にぴったりとマッチしています。

第二に、非営利組織としての大学と市場経済の間の産学連携が理想的な持ちつ持たれつの関係となり得ることで

ス
ラ
イ
ド

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

なぜ「住学」:「産学」=1:36,000なのか?

1) 出会いと交流のプラットフォームとしての大学
「産」・「住」共に有効な大学の機能

2) 非営利組織としての大学
「産学連携」には強力な推進力
「住学連携」→「住」も「学」も非営利活動

**目先のことだけ考えると、
「住」と「学」は Give and Take でない!**

9

では、なぜ、住学協同は産学協同の3万6千分の1しか認知されていないのか?

出会いと交流のプラットフォームとしての大学の機能は「産」にも「学」にも有効です。

一方、非営利組織としての大学の機能は、産学連携を強力に推し進めましたが、住学連携では、「住」も「学」も非営利活動であり、目先のことだけを考えると、「住」と「学」は持ちつ持たれつ関係にありません。

人にしろ、組織にしろ、どのようなお付き合いにおいても、持ちつ持たれつ関係が無いと、そのお付き合いは長続きは致しません。

ス
ラ
イ
ド
1
0

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」:なぜ筑豊で生まれたのか?

栄光の石炭時代から
「石炭六法」の補助金行政の時代へ

3つの主産業・3つの損
「鉱害復旧・生活保護・就労事業」
「大声を出さなきゃ損・もらわなきゃ損・人の後ろから手をださなきゃ損」

いくら金を注いでもオアシスのできない「筑豊砂漠」
筑豊砂漠に流れる地下水脈:「隣人への深い思いやり」
[隣人への深い思いやりなくて筑豊という地域は牽引できない]
← 筑豊のキーワード → [One for All, All for One]¹⁰

では、なぜ、筑豊で住学協同が生まれたのか？

筑豊ゼミが生まれた約20年前の筑豊を振り返ってみますと、当時の筑豊は、栄光の石炭時代が終わり、石炭六法の補助金行政の時代にどっぷりと浸っていました。

筑豊は、3つの主産業、3つの損などと揶揄され、いくら金を注いでも、オアシスのできない「筑豊砂漠」と呼ばれていました。

しかし、100年続いた栄光の石炭時代、地底で命をかけて働いた石炭時代に培われた「隣人への深い思いやり」という地下水脈は、枯れずに脈々と流れていました。

「隣人への深い思いやりなくて、筑豊という地域は牽引できない」これは、私が好きな筑豊のキーワードの一つです。

隣人への深い思いやりが作る地下水脈が、筑豊砂漠の各地にオアシスをつくりました。

当時、筑豊25市町村に150を越えるオアシスが湧き出していました、市町村の枠に留まっていた。

この多数のオアシスを、あるマスコミが設置いたしました「あすの筑豊を考える30人委員会」が「交流と連帯」によって合流させ、「筑豊砂漠」に水を引き、蘇ろうという熱気を生みました。

当時の熱気を伝えるのにぴったりの文章を、筑豊ゼミ第1期の事務局長、加地豊さんが残しておられますので、ここで、それを読ませていただきます。

皆で井戸を掘ろう、砂漠に水を引こう、田畑を耕そう、種を蒔こう、自らの知恵と汗で収穫を得よう。さあ、機は熟した。ふるさとの自然、歴史、文化、風土、特産品、人、物、心のすべてを生かして蘇ろう。人間らしく生きよう。

今読んでも、十分熱気が伝わってきます。

筑豊砂漠に水を引く活動の中から、地域の頭脳としての大学の役割の重要性と、私学の可能性が問い直され、大学と地域が連携する「住学協同」の構想が生まれました。

住学協同の構想が大学からではなく、住民の活動から生まれたことを強調したいと思います。

さて、私学の可能性とは何でしょうか？当時の発起人会に集まった方々に伺いますと、それが、教室一つ借りるという日常的なことであっても、先例が無いことに対する「国公立大学の硬さ」に対比した「私学の柔らかさ」を現していると思います。

ス
ラ
イ
ド
1
1

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

隣人への深い思いやりが作る地下水脈

この地下水脈が、筑豊砂漠の各地にオアシスをつくり、「あすの筑豊を考える三十人委員会」が「交流と連帯」により市町村の枠にとどまっていた多数のオアシスを合流させ、「筑豊砂漠」に水を引き、蘇ろうという熱気を生みました。

皆で井戸を掘ろう、砂漠に水を引こう、田畑を耕そう、種を蒔こう、自らの知恵と汗で収穫を得よう。
さあ、機は熟した。
ふるさとの自然、歴史、文化、風土、特産品、人、物、心のすべてを生かして蘇ろう。
人間らしく生きよう。
(「筑豊ゼミ」第1期事務局長 加地 豊)¹¹

ス
ラ
イ
ド
1
2

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」構想の誕生

「筑豊砂漠」に水を引く活動のなかから地域の頭脳としての大学の役割の重要性と、「私学」の可能性が問い直され、

大学と地域が連携する
「住学協同」の構想が生まれました

「私学」の可能性:
新しいこと、先例の無いことへの
「私学」の柔らかさ ⇔ 「国公立」の硬さ
筑豊住民へ図書館(蔵書の館外貸出)など、キャンパス解放

ス
ラ
イ
ド
1
3

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

大学と地域の共催によるゼミナール

地域づくりにかかわる各団体・リーダーの
・交流・意見交換・知識の充実・情報の収集・・・
・住みよい筑豊を築いていくため、

筑豊ゼミ開講をという「要望書」を近畿大学へ提出

近畿大学教授会と発起人会との会議で、徹底して「自主自立」のための運営方法が論じられ、ここに全国に例のない大学と地域の共催による

筑豊ムラおこし、地域づくりゼミナール 誕生

住民の主だった人たちが、「地域づくりにかかわる各団体・リーダーの交流、意見交換、知識の充実、情報の収集、住みよい筑豊を築いていくため」筑豊ゼミの開講をという「要望書」を持って近畿大学へ押しかけてきました。

これを受けた当時の大学教授会と発起人会の会議で、徹底して「自主自立」、この自主自立ということが、筑豊にとって大変大事なことですが、自主自立の運営方法が論じられ、ここに、全国に例の無い、大学と地域の共催による「筑豊ゼミ」が誕生いたしました。

ス
ラ
イ
ド
1
4

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

40人の募集に100人を超える応募

ゼミナール応募者の特徴

- ・筑豊全域から
- ・地域おこしにかかわる個人や団体
- ・地域おこしに熱心な企業経営者
- ・筑豊25市町村のかなりの自治体の職員

行政サービスの現場にいる職員と住民が、
黙黙を捨てて諍諍を取る(第1期修了式本郷学部長挨拶)
→ 期せずして「住・官・学」協同が生まれる

募集要項では、定員、先着 40 名といたしましたが、100 人を大きく超える応募がありました。止む無く 100 名まで受け入れることに致しました。

なお、先ほどの要望書とこの募集要項は、資料 3 としてお手元に配布しております。

集まってきた筑豊ゼミ生は、筑豊全域から、地域おこしにかかわっている個人や団体から参加者が多かったのは当然ですが、地場企業経営者の他、筑豊25市町村のほとんど全ての役場の職員が参加していました。

行政サービスの現場で頑張っている職員が、住民と、「黙黙」を捨て、「諍諍」を取る議論を行ったことは特筆するべきだと思います。期せずして、「住官学協同」が行われたわけです。このことは、後々、筑豊ゼミ OB が各地で地域づくりに活躍するために大いに役立ちました。

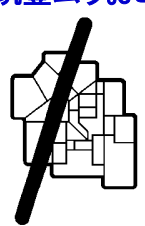
ス
ラ
イ
ド
1
5

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

開かれた大学、自立する筑豊の実験

筑豊ゼミ
(筑豊ムラおこし・地域づくりゼミナール)

昭和63(1988)年
4月22日
第1期 開講式
本郷英士学部長 開講式 挨拶
“地域と大学「渾沌」からの出発”



筑豊ゼミのシンボルマーク

15

「開かれた大学、自立する筑豊の実験」を標榜して、筑豊ムラおこし、地域づくりゼミナール、略称筑豊ゼミが、昭和 63 年、丁度今から 18 年前の 4 月 22 日、100 名のゼミ生を迎えて開講しました。当時の本郷英士学部長は、“地域と大学「渾沌」からの出発”と題する挨拶で、筑豊ゼミの開講をお祝いされました。

ここに示した筑豊ゼミのシンボルマークは、筑豊 25 市町村が、交流と連帯という 1 本の太い軸に結集していくことを表しています。



第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「手さぐりの出発 バ・ホ・キの情熱」

100人のゼミ生が生んだ分科会
3分野、5分科会

- ムラおこし
 - 産業おこしを考える
 - イベントを考える
- 地域づくりを支える役割
 - 住民自治を考える
- 地域づくり
 - 歴史と風土を考える
 - くらしと教育を考える

バ・ホ・キ:バカ・ホラフキ・キチガイ

こうして予想外の 100 名のゼミ生で始まった筑豊ゼミは、手さぐりの出発でしたが、まさに、バ・ホ・キの情熱で、日々新しい試みを作り出していきました。

100 名は講義ならともかく、ゼミナールとして運営するには、いかにも多く、9 月からは、ゼミ生の希望によって生まれた、5つの分科会、産業おこしを考える、イベントを考える、住民自治を考える、歴史と風土を考える、くらしと教育を考える、に分かれて、熱心に学習し、とても活発な情報交換を行われていました。

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「筑豊ゼミ」誕生のころ

'88 4.22: 第1期開講式「地域と大学-「渾沌」からの出発」本郷英士
7.8: 特別講義「地域交通体系と筑豊」
「JR九州の改革とこれから」JR九州社長 石井幸幸
「第3セクター出発進行」田川市助役 湯前 保
11.25: 特別講義「今、筑豊に求められるもの」
福岡県知事 奥田八二
12.2-3: 人類動態学会西日本地方会で記念講演
「生活の流れは遠賀川とともに-筑豊の歴史と風土」
筑豊ゼミ生(若菜小教諭) 中島忠雄
'89 2.25: 日本計画行政学会九州支部第9回大会
「筑豊における地域おこし」筑豊ゼミ事務局長 加地 豊
3.29: 「筑豊地域づくりセンター」研究プロジェクトチーム発足
4.22: 第2期「筑豊ゼミ」開講式
5.24: 第1期「筑豊ゼミ」川崎教室開講

筑豊ゼミの熱気は、毎月 1 回の定例会に留まらず、特別講義の開催にも見ることができます。

7 月には、当時の石井 JR 九州社長と湯前田川市助役を迎えて「地域交通体系と筑豊」という特別講義を行い、11 月には、当時の奥田八二福岡県知事の特別講義を開催しています。

また、筑豊ゼミ生のレベルの高さを反映して、人類動態学会西日本地方会や日本計画行政学会九州支部大会で、筑豊ゼミ生が記念講演を行っています。

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「筑豊ゼミ」の熱気はどこから?

- 筑豊は崩壊し渾沌の地域状態(環境)
- 地域崩壊を救おうとする必死の想いの住民(原動力)
- 「あすの筑豊を考える三十人委員会」→交流と連帯(触媒)
- 筑豊ゼミ生の高い能力
「情報受信」への準備ができているとともに、
「情報発信」できる活動経験が豊富
→ Give and Take の関係がうまく回る
- 出会いと交流のプラットフォームとしての大学(場)
- 本郷英士 近畿大学九州工学部長(当時)(人を得て完結)

このような筑豊ゼミの熱気はどこから来たのでしょうか?

まず、筑豊は崩壊し、渾沌の地域状態にあったことです。

そして、地域崩壊を救おうとする必死の想いの住民がいたことです。これが原動力です。

そこに、あすの筑豊を考える 30 人委員会が、交流と連帯という触媒作用をもたらしたことです。

なによりも、筑豊ゼミ生の能力が非常に高かったことです。「情報受信」への準備ができているとともに、「情報発信」する活動経験が豊富であり、ゼミ生同士の持ちつ持たれつの関係が理想的に回っていました。

そして、住民の気持ちにピタッと来た、出会いと交流のプラットフォームとしての大学の存在があります。

最後になりますが、当時の本学の本郷英士学部長の存在を抜きにしては筑豊ゼミは語れません。

発起人会に参加された方は皆さん、本郷先生無くして、筑豊ゼミは無かったと仰っています。

ス
ラ
イ
ド
1
9

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」

筑豊ゼミの学習活動の中から
→ 恒常的な運営基盤への要望

平成元年3月:プロジェクトチーム結成
現実を踏まえながらもより夢を
ふくらませた形での議論

平成2年5月:
新井先生開発の'SIMPLE'による
「シナリオ」完成
→ 設立準備会

平成4年10月16日
設立総会



筑豊地域づくりセンター事務所開き

筑豊ゼミの学習活動の中から、恒常的な運営基盤への要望が生まれました。開講した翌年の3月には、プロジェクトチームが結成され、当時近大におられました新井先生の開発した手法である SIMPLE によるシナリオが完成し、設立準備会ができました。

平成4年10月に、自前の事務所を持つ「住学協同機構」筑豊地域づくりセンターが設立されました。

ス
ラ
イ
ド
2
0

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

地域文化創造のための「住学協同機構」

住民 ⇄ 筑豊ゼミ
⇄
センター ⇄ 近畿大学

地域文化創造のための
→ 調査/研究・人づくり

新井 深 教授(福千業工大)(アドバイザー) 日本計画行政学会賞受賞
“シナリオにもとづくデルファイ型調査手法「SIMPLE」の確立”

活動事例:
1997年3月('91, '94): 筑豊の将来を考えるための
「市長選挙ゲーミング・シミュレーション」
1998年3月: 筑豊の明日を考える
「筑豊分権フォーラム」
2000年3月: 筑豊における環境に配慮した地域づくり
「ゴミに対する取り組み」シンポジウム

「住学協同機構」は、住民と近畿大学、筑豊ゼミ、筑豊地域づくりセンターからなる協同機構として地域文化創造という壮大な目的を持ち、調査、研究と人づくりに出発いたしました。

アドバイザーとして指導された新井先生は、SIMPLE に関する研究で、日本計画行政学会賞を受賞されています。ある意味、住学協同の一つの典型であると思います。

地域づくりセンターの代表的な活動事例をここに挙げましたが、特に、1991年、94年、97年に実施されました、筑豊の将来を考えるための市長選挙ゲーミングシミュレーションは特筆すべきことだと思います。

ス
ラ
イ
ド
2
1

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

評価された活動

ふるさとづくり'97
「住学協同機構」地域づくりセンター
開かれた大学、自立する筑豊の実験

<集団の部>
内閣官房長官賞 「ふるさとづくり賞」受賞

.....
ふるさとづくり'96
I Love 遠賀川実行委員会 「ふるさとづくり奨励賞」受賞

このような活動は、全国的にも評価され、ふるさとづくり'97において、内閣官房長官賞「ふるさとづくり賞」を受賞する栄誉に輝きました。

ス
ラ
イ
ド
2
2

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

ふるさとづくり'97

何が評価されたか? 一つの総括(加地 豊)

- 1) イデオロギー論争を超えたこと。
- 2) 地域間を超えたこと。(25市町村)
- 3) 男女間を超えたこと。
- 4) 物や金でない心の豊かさを求めたこと。
- 5) 緑や自然を愛し、平和を願うこと。
- 6) 地方の時代の「自立自助」を
追究し続ける精神の高いこと。

何が評価されたのか? 加地豊さんが一つの総括をされていますので、ここにご紹介しました。

私が、特に注目いたしますのは、6番目の「地方の時代の自立自助を追及し続ける精神の高い」ことだと思います。

ス
ラ
イ
ド
2
3

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「筑豊ゼミ」最近の活動

**「みんなの筑豊大発見」
子供の目線で見た筑豊**



さて、筑豊ゼミ発足から18年経った今、「よくも続いたものだ」というのが私の実感ですが、筑豊ゼミはまだまだ頑張っています。

そこで、最近の活動を簡単にご紹介させていただきます。

みんなの筑豊大発見は、筑豊地区の小学校の総合学習などと連携を取りながら、子供の目線で見た筑豊を紹介しています。なかなか、面白いのです。

ス
ラ
イ
ド
2
4

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「地域の歴史と文化の再発見」分科会

第1期から続く伝統ある分科会

見て学ぶ、足で学ぶ、「筑豊の宝さがし」分科会

1)長崎街道:飯塚宿、内野宿 2)筑豊炭田の近代化遺産
3)嘉飯山地区の祭りと行事 4)筑豊弁で語る筑豊の民話



地域の歴史と文化の再発見の分科会は、第1期から続く伝統ある分科会で、生涯学習の分科会としての性格を持っています。

最近では、長崎街道や筑豊の祭りや民話など、ここに示した4つの柱で学習を続けています。

来年度、19期では、観光産業などの産業おこしにも繋げようと、意気込んでいます。

ス
ラ
イ
ド
2
5

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「まちづくりと合併」分科会

まちづくり分科会から発展、第13期には、
「市町村合併の手引き」作成
中心メンバーが
筑豊市町村合併推進市民連絡会議
マツコイア
を結成しました。
17期まで、継続的にまちづくりと合併について学習

まちづくりと合併分科会は、第1期から続く、筑豊ゼミの核となるまちづくり分科会であり、第13期には、非常にレベルの高い「市町村合併の手引き」を作成しています。

ス
ラ
イ
ド
2
6

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「安心と安全のまちづくり」分科会

18期「まちづくりと合併分科会」が発展
「子どもの安全どう守る」
PTA対象にアンケート
朝の登校時間に比べて
放課後の活動が手薄な実情が
浮き彫りに
「地域社会と連携して取り組み強化を訴える」

まちづくり分科会は今年度「安心と安全のまちづくり」分科会となり、今年度の活動は、マスコミにも紹介されています。

ス
ラ
イ
ド
2
7

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「筑豊の環境を考える」分科会
大学のアドバイザーが最も良く機能している分科会

- ・定期採水調査:筑豊地域20箇所を選び、
10年以上にわたり、継続的に、
水環境(BOD, COD, TOC, pH, EC)調査
- ・福岡県環境教育学会への参加(発表)
- ・環境関連施設の見学(RDFゴミ発電施設等)
- ・環境アンケートの実施

ゼミ生の中心メンバー:「飯塚市環境市民会議」で活躍

27

筑豊の環境を考える分科会は、大学のアドバイザーが最も良く機能している分科会です。

10年以上にわたって、遠賀川水系の環境についての地道な活動を行い、貴重なデータを集積しています。

ス
ラ
イ
ド
2
8

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「筑豊の交通を考える」分科会

鉄道、バスともに「路線存続」が厳しい地域

鉄道:JR九州、筑豊電気鉄道、平成筑豊鉄道
バス:JRバス、西鉄バス

第16期:現状と課題を明確にする
第17期:事例研究:平成筑豊鉄道
「存続・再生」させるために何をなすべきか?

注)第1期 特別講義「地域交通体系と筑豊」
・石井幸孝 JR九州社長(当時)
・瀧前 保 田川市助役(当時)

28

筑豊の交通を考える分科会もまた、第1期で特別講義が行われたように、筑豊にとって重要な課題を取り上げています。昨年度は事例研究として平成筑豊鉄道を取り上げました。

ス
ラ
イ
ド
2
9

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「筑豊ゼミ」1988年～2006年:18年の総括

出会いと交流のプラットフォームとして
筑豊全域から
人が集まり、出会い、交流し、出て行き、
各地で“新しい地域おこし”を育む

地域おこしの核となるヒトを育てた

曲がり角にきた「筑豊ゼミ」
ゼミ生の高齢化:若い新しい人が入らない
役割が終わったのでは? では、新たな役割とは?

筑豊ゼミの18年を、私なりに振り返って見ますと、「筑豊ゼミ」は、出会いと交流のプラットフォームとして、筑豊全域から、人が集まり、出会い、交流し、出て行き、各地で新しい地域おこしを育む、地域おこしの核となるヒトを育てました。

その意味で、筑豊ゼミは大変高く評価されるべきだと思います。

しかし、さすがに18年、筑豊ゼミも曲がり角にきています。筑豊ゼミ生が高齢化したことは否めません。それは、新しい若い人が入らないということを示しています。

それはなぜか?役割は終わったという人もいます。確かに、当初掲げた目標にこだわってはいは、変化する時代に取り残されることは必然です。

私は、今の時代に合わせた、役割が十分にあり、住学協同機構の一つとしての筑豊ゼミと、地域づくりセンターの新たな役割が求められているのが、今だ、考えています。

ス
ラ
イ
ド
3
0

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同機構」筑豊地域づくりセンター

「地域文化の創造」という期待に応えていない

- ・「学」の側からの寄与の希薄さ
社会科学系教員・研究者が手薄(理工系の宿命)
→ 産業理工学部(文理融合型:Humanity-Oriented)への改組
→ 社会科学系・人文系教員の強化(精についたばかり)
- ・時代に合わせた目標設定ができていない

最近の試み

- 1) 筑豊地域研究会
- 2) 筑豊ゼミの支援
- 3) 講演会の開催
・巻校日々新聞社主 福岡県地域政策課長 遠賀信用金庫理事長
- 4) 「住学協同公開講座」への協力

30

住学協同機構地域づくりセンターもまた、地域文化創造という期待に必ずしも応えていません。

その最大の原因は、社会学を専門とする新井先生が去った後、社会科学系の教員が少ないという、理工系学部の宿命として「学」の側からの寄与の薄さにあります。

そのため、私の学部長時代に、文理融合型の学部としての産業理工学部への改組を行いました。まだまだ緒についたばかりです。また、時代に合わせた目標設定ができていないこともあげることができます。

しかし、住学協同機構地域づくりセンターは、最近、ここに示しましたような、新しい試みを始めています。

筑豊地域研究会は、地域文化創造を目指して、筑豊を客観的に見る力、筑豊を書き、語る力をつけること、筑豊学に繋がる研究を目的に活動を続けています。活動を始めて、やっと2年ですが、既にいくつかの業績を出しています。

産業理工学部の紀要「かやのもり」に2本の研究論文を出稿しております。本日その写しを皆様の手元に配布させていただきました。後ほど、ゆっくりご覧下さい。

なお、その論文が収録されています、かやのもり02号と、03号につきましては、数に限りがございますので、見本として数冊、会場で回覧させていただいています。どうしても、かやのもりそのものが欲しいという方がおられましたら、お申し出下さい。先着10名様まで、ご期待に応えることができると思います。

さらに、大学主催の住学協同公開講座へ住民を講師として推薦し、協力しています。このうち、牛島さん、宮嶋さん、塩川さんの3名は、筑豊地域研究会のメンバーです。

ス
ラ
イ
ド
3
1

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

筑豊地域研究会：地域文化創造

目的: 筑豊を客観的に見る力、
筑豊を書き、語る力をつける
現地観察・証言収集・資料収集により
「筑豊学」につながる研究
「地域づくり」に大切な3P(Planning, Presentation, Performance)
「それぞれの地域論」を構築しながら、3Pをマスターする

業績: ①近畿大産業理工学部主催公開講座へ講師派遣
②学部誌「かやのもり」に2号から研究論文を出稿
③新しい地域を発掘:「青年団村芝居の台本」発見は新聞にも大きく掲載された。

31

ス
ラ
イ
ド
3
2

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同公開講座」への協力

「人と川の民俗誌」
牛島英俊氏(直方歳時館館長)

「筑豊の女性・世界の女性」
宮嶋玲子氏(ガールスカウト日本連盟福岡県支部長)

「交流型地域開発のこころみ -「むら」というテーマパーク-」
道 廣幸氏(赤村助役・源じいの森副理事長)

「伝統と現代の創造的統一 -アイガモ農法の未来-」
古野隆雄氏(全国合鴨水稲会世話人代表)

「住民自治とNPO活動を考える」
塩川秀敏氏(NPO法人ヒューマンネット大地の翼事務局長)

ス
ラ
イ
ド
3
3

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」の原点:
「開かれた大学、自立する筑豊の実験」

「誰」に開いているのか?

[産] に開かれた大学は多い
[産] ⇔ [学] : Give and Take
[産]から[ニーズと資金] : [学]から[シーズと知恵]

[住] に開かれた大学は少ない
「住」に開いた窓の典型は「公開講座」
「学」 ⇒ 「住」 : Give and Take

33

曲がり角に来たときは原点に還れといえます。住学協同の原点「開かれた大学、自立する筑豊の実験」について考えてみますと、大学は一体、誰に開いているのか?

産に開かれた大学は多いのです。産と学では持ちつ持たれつ関係をつくりやすく、近畿大学産業理工学部もまた、産学協同については、どこの大学にひけを取らない自信があります。

一方、住に開かれた大学は少ないのです。住に開かれた窓の典型は、公開講座で、これをやらない大学はほとんどありませんが、どうしても学から住への一方通行になりやすい欠点があります。

ス
ラ
イ
ド
3
4

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住」と「学」 Give and Take は可能か?

1)大学の実力を上げる: 相手が「産」であれ、「住」であれ
・「**社会に開くこと**」で**大学の実力が明らかになる**。
実力がない大学は、誰にも開けない
・「**大学を開くこと**」で**大学の実力を上げる**ことができる
「**産学協同**」とともに、
「**住学協同**」がもたらす大きな意味(Take)
忘れてはいけないこと

「開くこと」と「迎合すること」は全く違う!

**「独立した「非営利組織」としての大学が、
チェック機能を失えば、その存在価値はない。**

34

では、住と学の間で、持ちつ持たれつは可能なのか?

私は、可能だと信じています。根拠は2つございます。

その一つは、住学協同により、大学の実力を上げることができることです。産であれ、住であれ、社会に開くことで、大学の実力が明らかになるため、実力が無い大学は、誰にも開けません。すなわち、大学を開くことで、大学の実力を上げることができます。

このことが、産学協同と並んで、住学協同がもたらす大きな意義だと思います。

しかし、「開くこと」と「迎合することは、全く異なります。

例えば、スポンサーに迎合して、「独立した非営利組織」としての大学の社会に対するチェック機能を失えば、その存在価値はありません。

二つ目は、大学が典型的な立地産業であることです。

大学氷河時代と呼ばれる今、立地条件を高めることは、大学が生き残るために不可欠です。

東京都心から八王子などの郊外に移転した大学の多くは、学生募集に苦戦しています。

新しい情報、新しい技術、新しい文化を発信することは、大学に課せられた課題ですが、逆に、大学が立地するためには、そのまちが、情報や技術や文化が集まるまちであることが不可欠です。

また、私たち大学人が入学して欲しいと願っている「元気な学生」は「元気なまち」、「学生が愛されているまち」に集まります。

元気なまちこそ、大学の立地条件といえます。

大学がまち(産と住)と協同して元気なまちづくりをすれば、「大学とその学生が愛されるまち」ができます。

ス
ラ
イ
ド
3
5

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住」と「学」 Give and Take は可能か?

2)大学は典型的な立地産業
大学氷河時代、立地条件を高めることが不可欠

情報は 情報を発信するところに 集まる
技術は 技術を発信するところに 集まる
文化は 文化を発信するところに 集まる

「元気な学生」は「元気なまち」に 集まる
「学生が愛されているまち」に 集まる

「元気なまち」こそ、大学の「立地条件」
大学がまち(産と住)と協同して「元気なまちづくり」をすれば、
「大学とその学生が愛されているまち」ができる

35

ス
ラ
イ
ド
3
6

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

大学が生き残る条件

立地する地域が元気

- 住んでいる人が、その地を愛し、自慢している
住んでる人が自慢しない地に学生は来ない
- 知的興奮(=文化の創造と発信)がある
[住学]および「産学」協同が、知的興奮を生み、
本当の意味での地域格差をつくる
- 地域経済の健全な発展がある
補助金に頼らない地域経済「自立した筑豊」
→「住学協同機構の原点」

36

結局、大学が生き残る条件は、立地する地域が元気だということ。

元気だということは、住んでいる人が、その地を愛し、自慢しているということです。住んでいる人が自慢しない地に学生はきません。

知的興奮があるということです。知的興奮とは、文化の創造と発信があるということです。

もう一つ重要なことは、地域経済の健全な発展があるということです。言い換えれば、補助金に頼らない地域経済に支えられた「自立した筑豊」ということです。

ス
ラ
イ
ド
3
7

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

奇跡を起こした村の話:新潟県 黒川村(現胎内市)
吉岡 忍 (ちくまプリマー新書)

貧困と豪雪と出稼ぎの村から、スキー場、4つのホテル、そば屋、地ビール工場兼レストラン、フラワーパーク、クアハウス、スポーツ施設、キャンプ場、釣り堀、畜産団地、ハム工場、ヨーグルト工場、味噌工場、肥料工場、ゴルフ場、...を経営する村へ
人口:6389(’75)→6750(’00) (80年代末:過疎地指定取り消し)

伊藤孝二郎 村長 1955年~2003年 12期48年の成果
「高度経済成長という魔物から村を守る。出稼ぎでやっとならぶ村では、放っておくと若者はどんどん出てしまう。」(伊藤村長談)

具体的な村(まち)のビジョン → 補助金を「活用」
補助金に合わせたまちづくり → ハコモノ → 破綻
「行政」の役割:まちのビジョンを具体的に語り、議論し、実現する

37

補助金に頼らない地域経済について考えるとき、最近読みました、吉岡忍さんの「奇跡を起こした村の話」に大変共感を覚える点がありましたので、ご紹介させていただきます。

話の主角、新潟県黒川村、昨年合併して現在は胎内市の一部ですが、その黒川村は、1955年から2003年まで12期48年村長を務めた、伊藤孝次郎さんという強烈な個性を持つ村長さんが作り上げたものです。

貧困と豪雪と出稼ぎの村から、スキー場からホテル、ゴルフ場まで、ここに書ききれないほどの施設や工場などを経営する村として発展してきました。

そのため、この30年間人口も増加し、1980年代末には過疎地指定が取り消されるほどの村になっています。

黒川村のこれらの施設は、全て、国や県の補助金で作られています。

今、全国で補助金をつぎ込んだ第3セクターなどが、相次いで破綻しています。

何が違うのか？

一言で言って、黒川村では、具体的な村のビジョンが先にあって、それを実現するためには、何が必要かを考え、補助金を活用しているのです。

破綻している例のほとんどは、先に補助金があり、その補助金に合わせたまちづくりを考えているために、ハコモノだけができ、その維持費に苦しんで破綻するというものです。

吉岡さんは、行政の役割の重要性を指摘し、まちのビジョンを具体的に語り、議論し、実現することが大切だと書いています。

ス
ラ
イ
ド
3
8

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

**e-ZUKAトライバレー産学官交流研究会
まちづくりシンポジウム in 飯塚(2006/1/11)**

梶井 勝人 日本ユニシス社長 (基調講演)
 ・「このまちをどうするんだ」というビジョンがあるのか?
 ・やっている人達の自立と自主性 → **これが全て**
 ・投資するに足る魅力的な人たちが集まっているのか?
 ・**筑豊の特徴を生かしたまちづくり** (高齢者が多いことも産業おこしに繋がる)

正田 英樹 ハウインターナショナル社長 (コーディネーター)
 シアトル市:全米でも住みやすいまちで有名。なぜか?
 「子供達が輝いている」から
 輝く子供を育みたくて全米から優秀な人たちが集まり続ける

e-ZUKAトライバレー構想:2004年6月、経済産業大臣賞を受賞(第3回産学官
推進会議:飯塚市、九州工業大学、近畿大学産業理工学部)

先月、飯塚の嘉穂劇場で、e-ZUKA トライバレー産学官交流研究会、まちづくりシンポジウム in 飯塚が開かれました。

そのとき基調講演をされた梶井さんの話に共感を覚えたので、ご紹介しておきます。

- ・このまちをどうするんだというビジョンがあるのか?
- ・やっている人たちの自立と自主性、これが全てだ。
- ・投資するに足る魅力ある人たちが集まっているのか?
- ・筑豊の特徴を生かしたまちづくりが大切

というものでした。

また、コーディネーターをされた正田さんは、アメリカのシアトル市は、全米でも住みやすい町で有名だそうです。それは子供たちが輝いているから！輝く子供を育みたくて、全米から優秀な人たちが集まり続ける、と紹介されました。

元気なまちといっても、全国どこにでもある元気なまちではなく、筑豊という特徴を生かしたまちづくりが大切です。

では、筑豊の特徴とは何か？私なりに列挙しますと、

- 遠賀川流域:最も早く拓けた稲作文化圏である。
- 長崎街道や秋月街道など、海外文化の行き来した道に沿って発展したこと
- 近代化を支えたエネルギー産業の中心地であったこと
- 国立、公立、私立の大学が集積していること
- 適切な「人口規模」と「産業構成」を持つこと
- 「高齢者」(>65)も「若者」(18~24)も多いこと
- 何よりも、地域おこしに取り組む住民の自立する精神が高いことが上げられます。

これらの特徴を生かして、高齢者と若者が協奏・共創する社会の先進地として、「オンリーワンのまちづくり」に大きな可能性があります。

住学協同のこれからとして、地域おこしの新たな目標に、「知的興奮のある、自立した筑豊」を掲げたいと思います。

より具体的には、

- ・地域の特徴を生かした「産業おこし」
- ・合併後の具体的な地域ビジョンづくり
- ・自分の力で立ち、自慢できるまちづくり、すなわち、自立する筑豊
- ・子供たちが輝いているまちづくり、

子育てするなら筑豊で！にふさわしいまちづくり

現実には、「職」は筑豊でも、「住」は、子供の教育を考えて、福岡 や 宗像なんです。これは変えられますし、変えなければなりません。

ス
ラ
イ
ド
3
9

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「筑豊」の特徴を生かした「元気なまち」

「筑豊」の特徴

- 遠賀川流域:最も早く拓けた稲作文化圏
- 長崎街道・秋月街道:海外文化の行き来した道
- 近代化を支えたエネルギー産業の中心地
- 大学(九工大・福岡県立大・近畿大)の集積
- 適切な「人口規模」と「産業構成」
- 「高齢者」(>65)も「若者」(18~24)も多い
- 地域おこしに取り組む住民の自立する精神が高い

高齢者と若者が協奏・共創する社会の先進地として、
「オンリーワンのまちづくり」に大きな可能性

ス
ラ
イ
ド
4
0

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」のこれから

地域おこしの、新たな「目標」

知的興奮のある、自立した筑豊

- ・地域の特徴を生かした「産業おこし」
- ・合併後の具体的な地域ビジョンづくり
- ・自分の力で立ち、自慢できるまちづくり
自立する筑豊
- ・子供たちが輝いているまちづくり
子育てするなら筑豊で！
現実には、「職」は筑豊でも、「住」は福岡 や 宗像

ス
ラ
イ
ド
4
1

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」のこれから

地域おこしの、新たな「かたち」

ビジョンを具体的に語り、議論する

- ・投資したくなる「産業おこし」を考える
- ・提言したら、実現のために汗をかく
 お願いではなく、自分で実現する覚悟で提言する
- ・先に中身を考え、後からハコはついてくる
 「活用」した税金は返すことを前提に考える
- ・小学校から大学まで「開かれた学校」を考える
 「信頼」から始まる、住民と学校の良い関係

41

新しい目標が必要なだけでなく、
 地域おこしをどう進めるかという、新たなかたちが必要であり、何よりも、ビジョンを具体的に語り、議論することが大切です。
 それは、

- ・投資したくなる「産業おこし」を考える
- ・提言したら、実現のために汗をかく。お願いではなく、自分で実現する覚悟で提言
- ・先に中身を考え、後からハコはついてくる。
- ・小学校から大学まで「開かれた学校」を考える。「信頼」から始まる、住民と学校の良い関係

というものです。

ス
ラ
イ
ド
4
2

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

ご清聴有難うございました！

42

以上、非常に雑駁な話を、ご清聴いただきまして有難うございました。

なお、以下のスライド 43～47 は、研修会でパワーポイント配布資料の一部として末尾につけましたが、48～50 はパワーポイントの準備はしましたが、配布も使用もしていません。)

スライド 43

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第1期 開講式 「渾沌からの出発」

- ・血の気の多い筑豊の若い人々のたつての契め
- ・主役は住民、大学は何も仕組みない
- ・公開講座や産官学の協力とは異質な「住学協同」

第1期 修了式 「謬謬(がくがく)」
 (湯武以謬謬而昌)

- ・正しいと信ずることを憚らずに主張する
- ・黙黙を捨て謬謬を取る

43

スライド 44

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第2期 開講式 「湜湜(しよくしよく)」
 (涇以渭濁、湜湜其沚)

- ・水が清く底の小石まで見えること
- ・まだまだ、筑豊の未来は不透明だが、再生への努力が湜湜たる沚を生みつつある

第2期 修了式 「風立ちぬ、いざ生きめやも」

- ・筑豊に風が吹き始めた、さあ人間らしく生きよう

44

スライド 45

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第3期 開講式 「飄風(ひょうふう)」

- ・各地につむじ風を起こす
- ・一定の方向に吹く

一色の風では筑豊再生はできない

第3期 修了式 「愚公移山」

- ・行動に移すとは、長期的な展望に立って、焦らず、慌てず、目に見えるほどの効果がなくても失望せず、一步一步前進する

45

スライド 46

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第4期 開講式 「跣歩(きほ)」

(不積跣歩、無以至千里)

- ・半歩だけ進むことの繰り返しが、千里に至る
- ・「ば・ほ・き」を合言葉に、半歩進もう

ば・ほ・き=ばか・ほらふき・きちがい

第4期 修了式 「日々新」

(湯之盤銘曰、苟日新、日々新)

- ・跣歩を積むなかで生まれるけだるい日常性に埋没することなく、日々新たな気分でありたい

46

スライド 47

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

本郷英士学部長
筑豊ゼミにおける最後の挨拶

第5期 開講式 「菁莪(せいが)」

(菁菁者莪)

- ・人を育てる
- ・集まって、学習し、討論し、情報を交換し、地域再生の中核となる人材を育てることを楽しみにする

これが、筑豊ゼミ

47

スライド 48

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「地域」とともに生きる努力

住学連携:「住学協同機構」地域づくりセンターがふるさとづくり'97において「内閣官房長官賞 ふるさとづくり賞」受賞

産学官連携:近大産業理工学部・飯塚市・九工大が第3回産学官連携推進会議(2004/6/19)において「経済産業大臣賞」受賞
官主導の[σ-ZUKA TRY VALLEY]構想が評価される

これらの活動は、**立地条件を高めるための**

必要条件ではあっても十分条件ではない

49

スライド 49

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

子育てするなら筑豊で

開かれた学校:小学校から大学まで「住学協同」

- ・住民(保護者)と学校(教員)とが信頼しあう
- ・「先進国型教育」への脱皮

「ヒト」を立地条件とする地域おこしの必要条件

「先進国型教育」とは、地図にない、新たな目的地を創る教育
→ 人のやらないことに挑戦する

「発展途上国型教育」とは、先進国への地図を読むための教育
→ 答えのある問題を、一番速く解く

48

スライド 50

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし
HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

本当のゆとり教育を

他人と違うことで、世界をリード → 「先進国型教育」
アイデアの数だけ、他人と違うことを考える人の数だけ、一番がいる:みんな“勝ち組”
→ **これが、ゆとり教育**

答のある問題の点数で評価 → 「発展途上国型教育」
一番は一人だけ:他はみんな“負け組み”
“Winner takes All” (Bill Gates)

63